

「日本人スペイン語学習者とイントネーションについて」

高澤 美由紀（亜細亜大学法学部准教授）

スペイン語は、英語と同様に SVO 型の言語に分類されるが、英語などの言語に比較した場合、比較的語順が自由であると一般的に言われる。それ故か、スペイン語初学者を対象にしたテキストにおいて、感情動詞の主語が後置されるという点以外の語順に関する言及は、少ない傾向にある。しかし、語順は情報構造によって最終的に決定されることが、中級以上の学習者を対象とした文法書等においては指摘されている。一方、発話内のある要素を強調するためには、通常語順を変化させることで十分であるが、イントネーションのみ、もしくは語順の変化とイントネーションの組み合わせによっても発話内のある要素の強調が実現されるという指摘もある。以上のことから、スペイン語初学者にとって、スペイン語を母語とする人々の発話のイントネーションを正しく理解し、また適切なイントネーションで発話を行うことが意思疎通をスムーズに行うための一助となるのではないかと考えられる。

本発表では、最初にスペイン語母語話者と日本人スペイン語学習者に対して行った対照焦点の語順についてのアンケート調査の結果を提示した後、Takasawa(2019)に基づき、スペイン語の 2 つの焦点タイプ、広焦点と対照焦点に関して、スペイン語母語話者がどのようにこれらの焦点を発話において実現しているのかについて、実験音声学の手法を用いて行った分析結果を紹介する。

最後に、日本人スペイン語学習者の発話を例示し、どのような音声的な問題点があるかについて考察し、情報構造を考慮した語順を習得することも円滑な意思疎通を行うために重要ではあるが、日本人スペイン語学習者にとっては、視覚的な *f₀* 曲線の提示や音声の提示を用いるなどの工夫をすることによって、適切なイントネーションを習得し、それを用いることも有効なのではないかという考えを示す。